目 次

「西条オリエンテーション・ルボrll111:-1

鯛雅行事に関するアンケート感|.・ ■:・ …ⅢⅢ….編
諭

「 大学における学問研究」について …“:… ……………・ 編 部 …・………・・
″こうも夕男にバンンシア娘

″ ………55年度生意識調査 ・………編 集
§テニス・ プーム §
⑭ テニスは楽し……………………………………………・ 陣 崎
⑭ あわぞらのなかま・・・・・…………¨………¨…………¨……・ 森

「

シリーズ。学問のススメ…■
=■

ⅢⅢⅢ・‐“

r"'嗜・‐静"■■■

=.■

・ “

¨¨・""“ “
・・●II¨ Ⅲ■・・・●....・ “"'ⅢⅢ….‐“¨"¨“ リーズ。学問のススメ…■ⅢⅢⅢ

¨Ⅲ¨"■●●.・ ¨"“¨″¨"“"´¨""ゴ¨"… IⅢ…

Ⅲ'嗜・‐‐"■●Ⅲ=・

・■“

¨¨・""“ “・●II¨・Ⅲ・鴨"“ "'ⅢⅢ….‐“¨"¨“

¨Ⅲ¨"■●●・・¨"“¨″¨"“"´¨""ゴ¨"… ■

≦亀?里■菅金養1盤墨三二.II.´£…ニユ“"1..‖i‖¨」¨瞳

総合科学部同窓会な設立たついて.=■,■11・ …Ⅲ¨:・ 1,II・ ……° 重 中 義 信 ・…………… 19

部 ・:・:∵::1■ |

部 ‐… … ・・ ■,■ 1

部 ・…………… 12

克 博 ・…………… 16
利 一 ・…………… 17

集

集

集

ψ

=編

:[γ

表紙:総合科学部新入生歓迎行事(西条研修)よ り

広島大学総合科学部報『 飛翔』ふ 16
新入生歓迎行事『西条オリエンテーション・ル範
― 酒と徹夜と男と女 ― 西条の24時間
5月 24・ 25日の2日間、恒例・総科新入生歓
迎行事が西条共同研修センターで行われました。五
月病もなんのその。希望に胸ふくらむ新入生たちは、
24日午後 1鳳広大を出発 『 広大総押 』
(これはバス会社の間違いてした)と札の下がった
バスにゆられること1時間半。途中、恐いダンプの
運ちゃんにからかわれながらも、午後 2時30ヘ
無事西条へ晴。そこは、私たちの想像をはるかに
上まわるド田舎でした。思わず故郷を思い出して涙
ぐむ人も…・。
センターの係員さんの諸注意のあと、学会のため
参加なさらなかった式部学部長のかわりに、松
尾先生の御挨拶。「 五月病を吹き飛ば臥今後の大
学生活を有意義にお〈るため、また気心の知れた友
をつ〈るために、この研修を充実したものにして下
さい。 」とのお言葉でした。そのあと、三寺先生力ヽ
『 人間の環境』と題してスライドを交えながら講演
され、なかなかよかったのですが、このころになる
と、もう空腹とねむ気をかくしされない人力ヽかな
りいました。そして、待ちに待った夕食の時間し勇
んで食堂にかけこみましたが、そこには毎日、学食
の入り口で見られるあの光景と、B定顔負けのメニ
ューが待っていたのでした。それでも食事代がうく
ことを思い出し、気を持ち直して、窓の外を走る新
幹線をながめながら食事を終え、入浴をすませると
チューター別行事が始まります。行ューターごと
rC部屋に集まり、まず自己紹九自分のチューター
にこんな人もいたのか、と驚いたりしで・・。そのあ
と志望コースなどの話しをして、いよいよ自由時間と
なります。そのまま、同じチューターの人とグーム
を始める人もあれば、外ヽ飛び出してゆ〈人もあり、
先生方がやすら力滝ねむりにつかれるころ、私たちの
時間が始まるのです。センターには、わざわざ私た
ちのために合宿所という所がつくってあります。先
生方のねむりを妨げないためにも実によい所です。
ここに集まった約半数の人の間で、様々な特技が披
露され数々のスターが生ま払熱気のため酔いつ
ぶれる人も出たくらいです。また、露にぬれた草に
腰を3・・ろ臥夜空をあおいて、カエルの大合唱に負
けじと歌を歌ったり、暗闇の颯四百メ=トルラン
ニング。研修室の方では、淡々とゲームを続ける人
もいれば、グームをやめて話しこむ人も。そこ、
合宿所から帰ってきた人も加わって、人生論、恋愛
論か吹イ離の話しや′ゾトの話しまでヽ話はつきませ
ん。夜というのは不思議なもので、普段はできない
話もついついてきてしまうものです。友達の意外な
面を見つけたり、ふっと、優しさに包まれたり、互
いに少しずつ心を開きあえたのではないてしょうか。
徹夜した人、明け方までカードに熱中した人もい
ましたが、各人様々な一夜を過ごして、西条の夜も
自み始めるころ、ポチボチと雨が降り始めました。
あたリー面ヽ白いもやがたちこめる中、鳥の声だけ
が聞こえる、静かな西条の朝でした。
6時 30分の予定起床時間もなんのその、昨夜の
-1-

夜ふか臥あるいは徹夜がたたってか朝食の少し前
になって、やっと洗面を始める始末でした。廊下て
出会う顔は、どれも「 ウー/眠い。 」といった感じ
て、大学生の朝の弱さを改めて痛感しました。
さて、洗面していると、先生方から「 昨夜はアル
コール類はどうだったの?遅くまで下のグラウンド
から歌う声がしていたみたいだけど・・も 」との御質
問。当然、先生方は知っていらっしゃるけれど、ま
ともに答えるのも具合いが悪いかなと思って、「 え
っ。′アルコール ?まあ・…ハハハ・・・。 」とか茶をにご
す次第でした。
7時 30分から朝食。ごはなみそ汁、つけもの。
あのたくらんは迫力満点だったナ。
約 1時間半の自由時間のあと、文系コース、理系
コース別に分かれてのガイダンスにはいりましれ
§文系コースのガイダンス
文系コース志望の学生と、 6名の文系の先生が集
まって、ガイダンスが始まりました。まずは、先生
方の自己紹介。次に、戸田先生より地域文化コース
についての説明があり、続いて、志村先生より社会
n4Lコースについての説明。そのあと、学生に質問
が求められましたが、昨夜の疲れの色が非常に濃く、
あまり質問は出ませんでした。個人的に先生の所べ
行ちて相談する人はありました力ヽ
ガィダンネがすむと、1理系の人と入りかわって、
映画『 尾瀬』を見ましれここでも睡魔からのがれ
ることはできませんでした。船をこぐ人、あさらめ
てうつぶせになる人、となりの人によりかかる人
それをサッとかわす人、授業中ならしてあるの力、
フラッともせずに目だけつぶれる人。起きていた人
にとっては、映画に優るとも劣らぬ、おもしろい光
景だったでしょう。
§理系コースのガイダンス
理系コースのガイダンスは、『 尾瀬』の映画
のあと、武森先生、樹下先生田代先生の三先生
広島大学総合科学部報『 飛翔』M16
を中心に第六・七集会室で行なわれました。最初に、
武森先生から環境科学コーヘ樹下先生から情報行
動コースの説明があったあと、質問にはいりましれ
まず、情報の‐群と環境の‐群の違い、情報の二群
と環境の三群の違いについての質問が出ましたが、
教職に関する点などで多少の有利不利があるかもし
れないけれど、講義によっては重なって受講する場
合もあるということで、結局は、それよりもコース、
群の枠を越えて広い分野にわたって研究するのが総
合科学として大切なのではないか、ということでし
た。また、教職員免許については、「 四年になった
時、単位が足りなくて、教育実習にゆけないという
ことも起こりうるので、教職を志す者は、二、三年
のうちに計画的に必要な単位を取ってお〈ように」
ということでした。一年間のコース決定の選択期間
が短かすぎるのではないかという問題も出ましたが、
これは長いとも短いともつかず、結鳳結論は出ま
せんでした。このガイダンス(途中からは懇談会と
いう感じてしたが)で、一つ驚いたことは、自らの
希望するコースを入学前、あるいは入学直後から決
めている人がプト常に多いということでした。それに
反して、入試の前までは総科の内容については、知
らなくて、募集要項で知ったという人が大半でした。
情報が少なかったという例で、武森先生から、螢雪
時代では、文系学部として紹介してあるという話も
ありましれ
§ガイダンス後
文系理系Jljのガイダンスの後は、 11時 30分か
ら少し早めの昼食
`昼
食後に予定されていたソフト
ボール大会は雨天のため中止。前夜ヽ夜あかしをし
た人はかえらてホットしたことでしょう。
退室前に部屋のそうしをして1時 30分頃 2台の
パスに分乗して一路広大へ。なか、当日5時 30分
から計画された打ち上げ■ンパは皆の疲労のため、
_日後の火躍日にもちこされました力ヽ参加者はご
〈少数 (約 25名)でしれ
二日の西条研修ヽ普段できない話を友人たちと
したこと、せめて総科内だけでも、友情が深まれ
ば幸いだと思います。
-2-

広島大学総合科学部報『飛翔』M16
新歓一
<1年弓
|プ
Ii:>― 結果
編 集 部
去る5月 24・ 25日に行なわれた総科新歓行事 「 生徒の方も積極的に発言すべきだった」
にかけるチューター別行事ならびに研修懇談会、お 「 質問の準備気事前に各自考えてお 〈べきだった」
よび他の企画について、良かった点、悪かった点 「肝心の研修なのに睡眠不足でねむたかった」
その他の意見のアンケートを取った。これは、学活 さらに奇抜な意見てはあるが
委員会がとり、学生側でまとめたもので、次回から 「 タテのつながりという意味も含めて、上級生も少
の参考にするためにも、大学側・学生側とも大いに 鯵考にコース決定の助言などをやって〈れたら
、_´ 検討反省する必要があると思う。 よかった」
まず、初日の夜のチューター別行事については、 などがあげられる。
「 現行のままでよい。よかった」 その他の企画として、三寺教授による『 人間の環
「 チューターとひざを交えた話し合いがもてて大へ 境 』と題する講演、映画『尾瀬 』があったが、緑の
ん親睦を深められた」 山間西条へやってきてまで椅子にすわらされていた
「 同じチューターの人と知り合いになれてよかった」 せいか
「 いろいろと細かい点がよく理解できた」 「 時間が長すぎるのではないか」
「 学生と教官のつながりを再認識した」 「 講演はうしろにいると聞こえにくいし、スライド
以上のような意見が圧倒的に多 〈、チューター内で もほとんど見えない 」
の ″親睦″ という目的rCおいてかなり充実していた 「『尾瀬』の映画はつまらなかった」
ようである。その点ヽ という意見が数少ない好評をEplしてしまっている。
「 自分の志望コースと違う先生だったので質問には 限られた研修の時間の使い方を検討してほしいとい
っきりとは答えてもらえなかった」 う意見も多くみられた。
「 テーマを決めて話が進みやすいようにしたらいい」 また予定されていて雨のために中止になったソフ
などの問題点は仕方がないと思われる。 トボール大会については
次に、 2日目の午前中の文一理系別研修懇談会で 「 雨でできなくて残念だった」
ある力、これはチューター別行事と違い、ごく真直 「 企画自体はよかった」
ヽ、v/ 面な各志望コースの認識を目的とされて行なわれた 「 雨の日は何かソフトボールにかわるものを考えた
ものである。しかし結果を見ると、 方がよい 」
「 コース決定についての不安がとりのぞかれた 」 「 ソフトボールだけでなく、他のスボーツも企画し
という意見が 2・ 3あるだけで、 てほしい」
「 もっと少人数でやったにうがいい 」 以上のような意見がほぼ全員にみられ、行事の最後
「 コース別にすればいい 」 をみんなで楽しみたいという統一した感情がみとめ
「 文一理系共通でやってほしかった」 られる。この点、大学側も雨天時対策を検討する必
「 コース別の詳しい資料をもとに話し合いをしたら 要があるだろう。
よい 」 その他嗜新歓行事を通じての意見として以下のよ
「 もっと多くの教授にもっと具体的なことを話して うなものがあがっれ
ほしかった」 「 新しい友人ができた」
「 固い話に終始していたようだ」 「 ほとんどの人の名前と顔が一致するようになった」
といったように各自様々な意見があったが、もっと 「 大学生活の本当の意味のようなものを知るワンス
少人nfLすることについては意見が一致していたよ テップになった」
うである。また学生側の反省点として 「 高校時代と違い、いろいろやかましく言われなか
-3-

ったのは良かった 」
「 準備などでムダになる時間がかなりある」
「 部屋割について検討してはしい 」
「 期間が短かすぎた」
「 行きのバスで人数過剰で行けなかった人がいた」
「 もう少しみんなと話し合う時間がほしかった」
「 全員参加にすべきだ」
「 学校側から、はっきりとした予定を事前に通告し
てほしい」
「 チューター別なり、部屋別なり、責任者およびそ
座談会
日 I13 1980年 5月 23日 P.m5:OIH7:00
出席者戸田吉信先生 (地域文化コース)
志村賢男先生 (社会文化コース)
日南田静員先生 (″)
樹下行三先生 (情報行動科学コース)
武森重樹先生 (環境科学コース)
荒井貞光先生(保健体育講座)
田村―郎先生 (外国語講座・広報委員D
学生一年生 15名
編集委員浜田。足立 (司会)
田村本日は皆さん御忙しい中を、こうして座談会
に出席していただき、どうもありがとうございます。
今回の座談会は、「 大学における学問研究 」という
大きなテーマなので、なかなか的がしぼりに〈いか
とも思いますが、学生諸君にはおいおい総合科学部
で自分のやりたいことに問題をひきつけて、質問・
意見を出してもらい、それに対して先生方のアドバ
イスを受ける形にしていきたいと考えています。
ここに参加して下さった先生方は、各コース・講
座のそれぞれの代表として来ていただいています力、
今回はコース・講座委員というよりも、個人の立場
から自由に意見を述べていただきたいと思います。
広島大学総合科学部報『 飛翔』肱 16
の責任をもっと明確にしてほしい」
以上のアンケート結果すべてを通して、概略的に
いえることは、多少の問題点はあるにせょ、参加学
生は充実した2日間をおくり、また大いに充実感を
味わったということである。それは単に学部内の教
官や学生と親しくなっただけのことかも知れないが、
入学してまだ日も浅 〈雑多な不安をいだいている学
生にとっては、それが最大の収穫であるといえよう。
司会今回のテーマ底 「 大学における学問研究 」
ということなのですが、あまりに漠然としています
ので、座談会の流れとして一応 (1メ洋とはどうい
う所なのか (2広島大学に学ぶことの意義 (3聡合
科学部における学問研究という三つの柱を考えて
みました。
では初めに、一年生の諸君の考えている大学とは、
どういう所なのかということについて、意見をうか
がいたいと思います。
一年生 ・………
司会一年生諸君からはなかなか意見が出にくいよ
うですので、先生方から口火をきっていただきたい
と思います。特に大学の教育・学問研究という点か
ら御意見をうかがいたいのですが。
田村今の質問は、大学の研究・教育をどう把握す
るの力、そして私自身が、大学で何をやっているの
かのふたつの答えが要求されていると思います。ま
ず、大学における学問研究と言った場合、学生へ教
育を行なうと同時に、専門の研究活動を行なう場と
して大学の位置付けがあると思います。そしてこの
総合科学部の創設というのは、それまでの教養部時
代の一―
に重きを置いた体制から、コース・大
学院の設置などによって、専門の研究と教育の両方
をやる体制が、ようや 〈整い始めたんじゃないかと
「大学における学問研究」について
思います。
-4-
大学とはどういう所なのか ?